

第2回21世紀出生児縦断調査の概要（案）

1 調査の目的

本調査は、21世紀の初年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察することにより、少子化対策等厚生労働行政施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象及び客体

全国の2001年に出生した子を対象とし、1月10日から17日の間及び7月10日から17日の間に出生した子を調査の客体とする。

3 調査の期日

1月出生児については平成14年8月1日現在、7月出生児については平成15年2月1日現在とする。

4 主な調査事項

家族構成、ふだんの保育者、育児の状況、発育状況、父母の就業状況及び子どもへの対応 等

5 調査の方法

調査票の配布、回収は、厚生労働省と調査客体のいる世帯と往復郵送方式により行う。

6 集計及び結果の公表

集計及び結果の公表は、厚生労働省大臣官房統計情報部が行う。調査結果は、「第2回21世紀出生児縦断調査結果概況」として速やかに公表する。

調査項目（案）

1 新規項目

1歳6ヵ月となる対象児の成長に合わせた新しい項目を採り入れる。特に児童の健全育成の観点からこの時期の育ち方・育てられ方が今後の成長・発達に影響を及ぼす可能性があることに留意し項目を追加している。

(1) 食事で気をつけていること

食事の態様が、成長・発達にどのように関係するか分析するため、親がこの時期の「子どもの食事で気をつけていること」を把握する。

(2) 就寝時間

睡眠が、成長・発達にどのように関係するか分析するため、「子どもの就寝時間」を把握する。

(3) 遊びのようす

遊びの態様が、社会的な適応能力を高めることとどのように関係するか分析するため、「遊び」の相手や内容について把握する。

(4) 病気・けが

「病気やけが」が親の負担感や成長・発達にどのように関係するか分析するため、この時期のその内容や多寡について把握する。

(5) 別居の祖父母

祖父母との交流が、子自身及びその親へどのように影響するか分析するため、「別居の祖父母」との接触状況を把握する。

(6) その他の新しい項目

- ・「身長・体重」
- ・「父母の学歴」
- ・「子どもと一緒に過ごす時間」
- ・「父母の食習慣」

2 第1回調査に引き続き今回把握する項目

- ・「同居家族の構成」
- ・「父母の就業状況」
- ・「父母の収入」
- ・「平日の保育者」
- ・「父母の家事・育児分担状況」
- ・「育児費用」
- ・「子どもを育ててよかったと思うこと」
- ・「子育てで負担に思うこと」
- ・「子育ての悩みや不安の有無」